

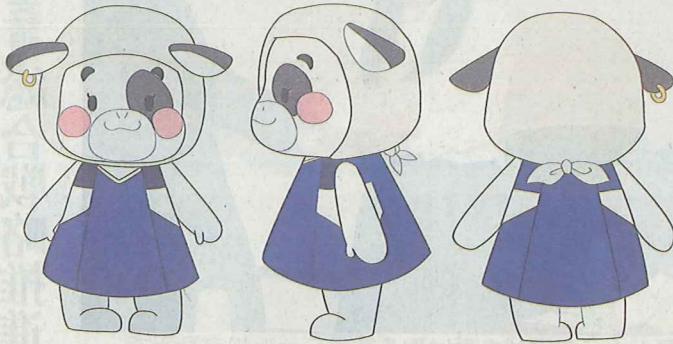
南部中にゆるキャラを

浜松市北区引佐町の引佐南部中学校と、中区の静岡文化芸術大の学生団体「BASE」が、引佐南部中のマスコットキャラクターを作成している。引佐町の名産「いなさ牛乳」の乳牛と、来年のNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の主人公井伊直虎、同中のジャージなどが合体したキャラクターで、八月末までに着ぐるみの完成を目指している。

(高橋貴仁)

乳牛・直虎・学校ジャージ合体

9月お披露目 文化芸大生が協力



静岡文化芸術大の学生らがデザインした引佐南部中のマスコットキャラクター。デザインについて話し合う生徒と学生ら。浜松市北区で。



引佐南部中とBASEは、老朽化した野球部の観覧用ベンチを共同で制作するなど交流があり、今回は同中が、ゆるキャラ作成の協力を学生に依頼した。

これまでに、生徒が描いた約三百枚のデザイン案の中から、嶋津瑠奈さん(三年)の原画を選んだ。出家した直虎がかぶっていたという白い頭巾を着けた牛のキャラクター。これを基に、BASEの学生らが複数デザインし、最終的に同中の青と白のジャージをイメージしたワンピース姿のデザインに決まった。嶋津さんは「生徒や地域の人に愛されるキャラクターになってほしい」と話す。

今後、キャラクターの名前を生徒から募集するほか、BASEのメンバーが中心になって着ぐるみを作成する。文化芸大二年の田中玲帆さん(と)は「引佐町をPRできるかわいいキャラクターに仕上げたい」と意気込んでいた。着ぐるみは、九月の体育祭でお披露目される予定。